



# 建設業における安全衛生管理について

「令和5年度 福岡市公共工事安全講習会」



令和5年11月6、7日  
福岡中央労働基準監督署

配布資料

# 労働基準監督署の役割

働く人びとの安心と安全を守るため  
あなたの街に労働基準監督署があります。



「福岡市公共工事安全推進計画」に基づく

## 令和5年度の実組み方針

—福岡市公共工事安全推進委員会—

### 2. 重点項目及び具体的な対策

挟まれ・巻き込まれ事故の防止

埋設物等損傷事故の防止

墜落・転落事故の防止

第三者人身事故の防止

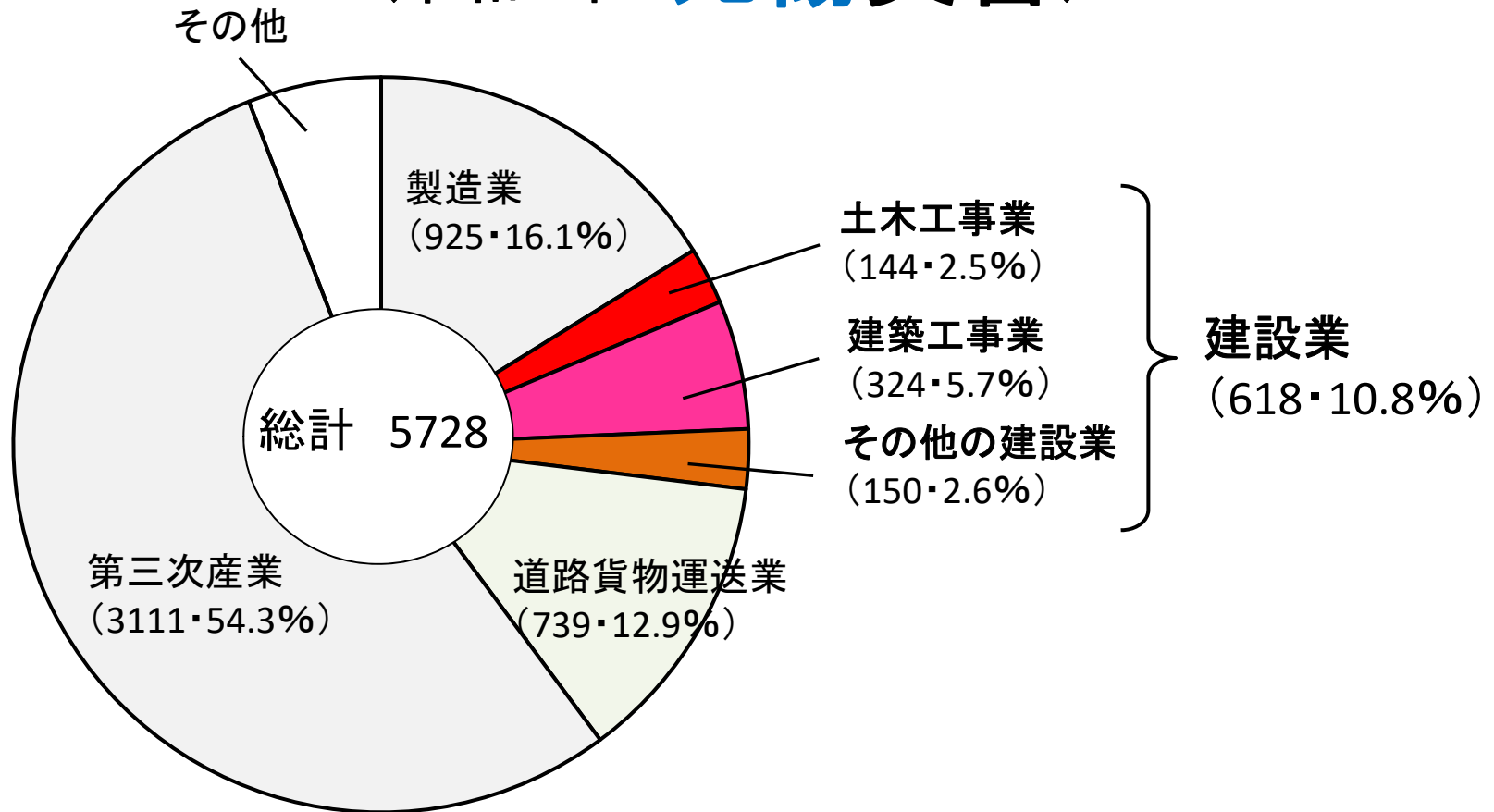


# 福岡労働局管内の労働災害発生状況

★以下のデータはすべて新型コロナウイルス感染症によるものを除いたものです。

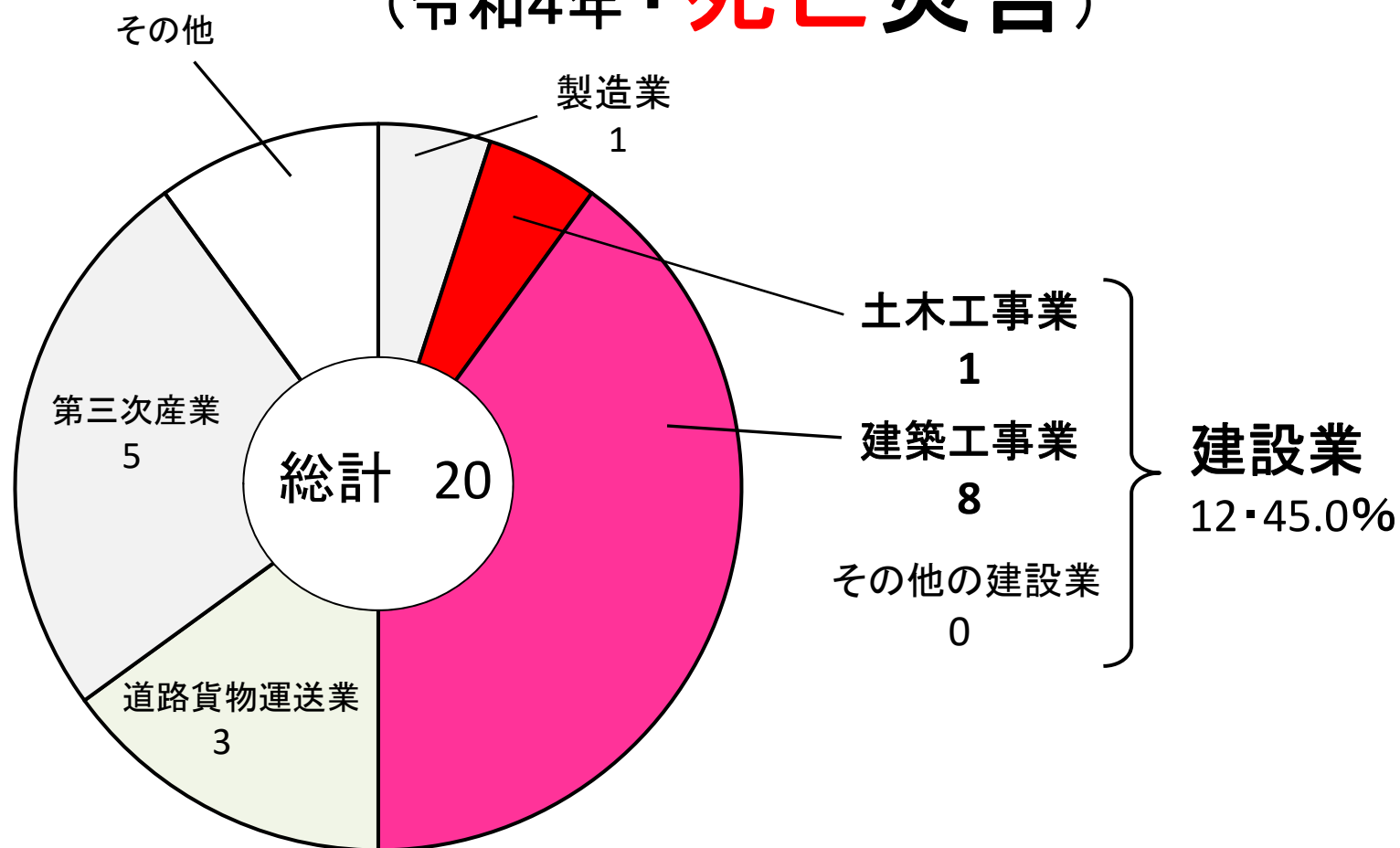
# 福岡労働局管内の業種別労働災害発生状況

(令和4年・**死傷災害**)



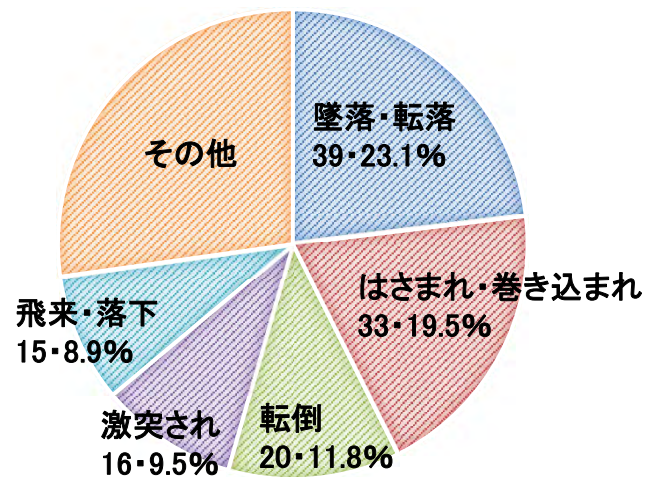
# 福岡労働局管内の業種別労働災害発生状況

(令和4年・**死亡**災害)

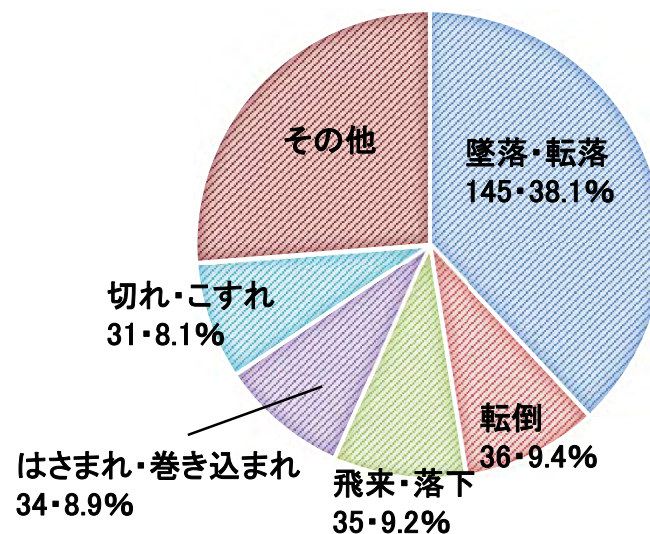


# 福岡労働局管内の建設業の労働災害発生状況(令和4年)

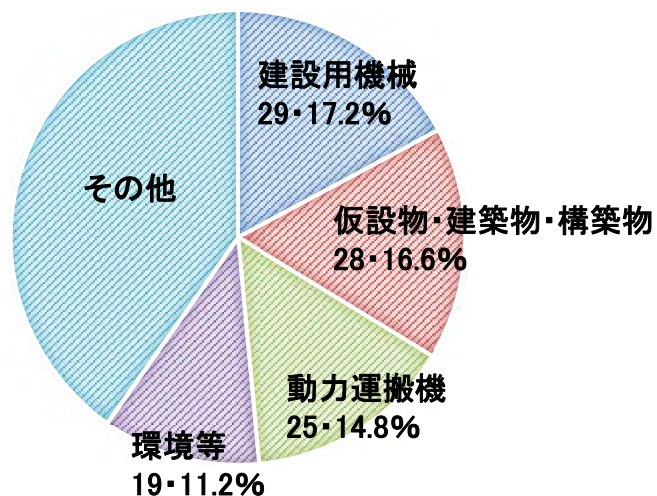
土木工事業・事故の型(169人)



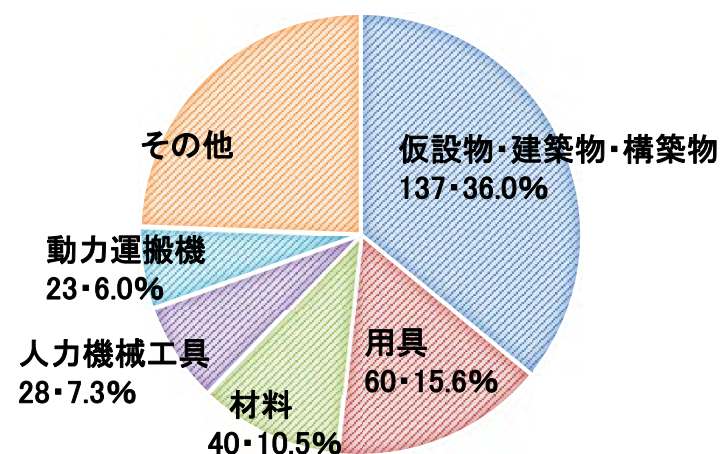
建築工事業・事故の型(381人)



土木工事業・起因物(169人)



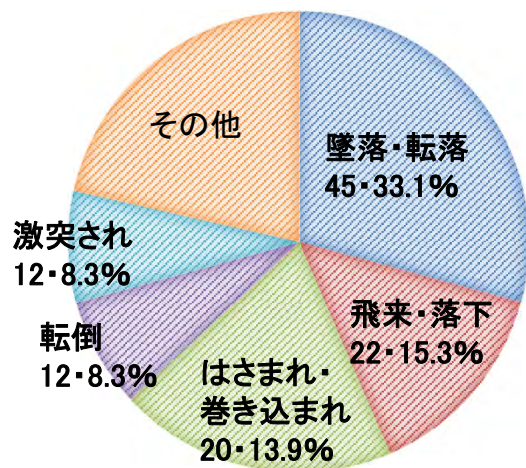
建築工事業・起因物(381人)



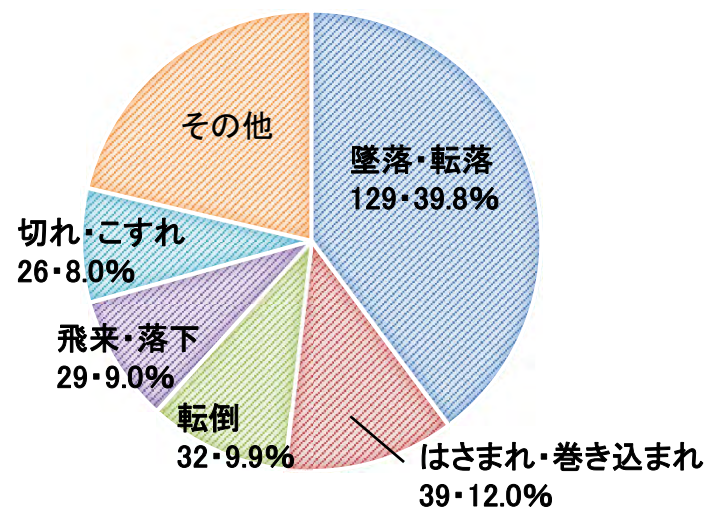


# 福岡労働局管内の建設業の労働災害発生状況(令和4年)

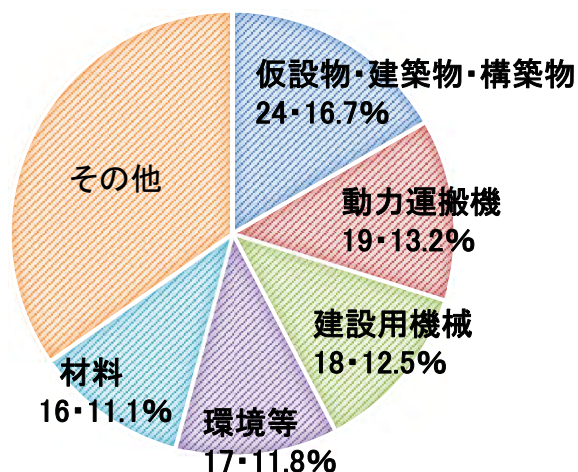
土木工事業・事故の型(144人)



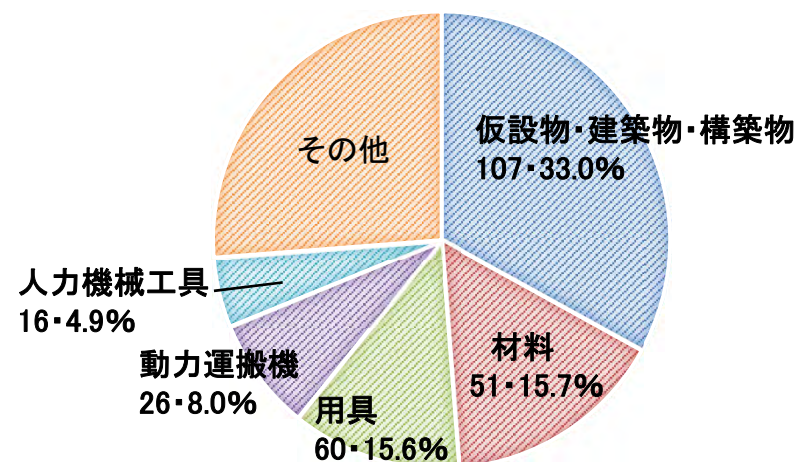
建築工事業・事故の型(324人)



土木工事業・起因物(144人)



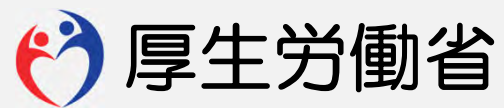
建築工事業・起因物(324人)







# 災害事例



＼ 職場の安全を応援する情報発信サイト ／

# 職場のあんぜんサイト



労働災害事例



## 護岸工事においてパワー・ショベル と法面との間にはさまれる



### 発生状況

本件災害は、護岸建設工事現場において、作業者がパワー・ショベルのバケットと護岸法面との間にはさまれたもの。

災害発生当時、現場に到着したコンクリートミキサー車から出る生コンをパワー・ショベルのバケットに注ぎ、それを「受け舟」と呼ばれる容器に移し替える作業を行っていた。この作業中、被災者がパワー・ショベルのオペレーター（運転者）に大声で何か呼びかけたが、よく聞き取れなかったパワー・ショベルのオペが運転室左側の開いているドアから身を乗り出した際、腹部が操作レバーに触れ、バケットが不意に前方に動き、被災者がバケットと護岸法面との間にはさまれ、内臓破裂により搬送先病院で死亡が確認された。

## 原因

- 1 誘導者を配置して誘導させていないにもかかわらず、作業者（被災者）をパワー・ショベルの作業半径内に立ち入らせていたこと
- 2 パワー・ショベルのオペレーターが、安全装置である操作レバー・ロック装置を作動させずに運転室から身を乗り出したこと  
→結果として、腹部がレバーに触れ、バケットが不意に動き、災害につながった
- 3 作業者（被災者）とパワー・ショベルのオペレーターとの間の連絡方法が決められていなかったこと
- 4 ...

## 配布資料

# 足場からの墜落防止措置が 強化されます

●改正労働安全衛生規則 令和5年10月1日から順次施行●



## 配布資料

トラックでの荷役作業時における  
安全対策が強化されます



# お問い合わせは…

## 福岡中央労働基準監督署

《管轄》 福岡市(東区を除く)、春日市、大野城市、筑紫野市、太宰府市、糸島市、那珂川市

安全衛生課 **092-761-5608** (ダイヤルイン)

## 福岡東労働基準監督署

《管轄》 福岡市のうち東区、宗像市、古賀市、福津市、糟屋郡(新宮町、久山町、粕屋町、篠栗町、志免町、須恵町、宇美町)

安全衛生課 **092-687-5345** (ダイヤルイン)

## 配布資料

STOP !  
転倒災害  
FUKUOKA 2023  
(2023.6月-2024.2月)

### 4Sについて

- 「整理」・・・必要な物と不要な物に分けて、**不要な物を処分すること**
- 「整頓」・・・**必要な物をすぐ取り出せる**ように、分かりやすく安全な状態で配置すること
- 「清掃」・・・作業する場所や身の回りのほか、廊下や共有スペースの**ゴミや汚れを取り除くこと**
- 「清潔」・・・職場や機械、用具などのゴミをきれいに取って**清掃した状態を続けること、作業者自身も**身体、服装、身の回りを汚れない状態にしておくこと



転倒災害の防止にもつながる

はしごを使う前に

脚立を使う前に

キーワードは、**3点支持**！

# 法律と規則等

憲法

法律

規則

通達

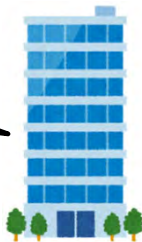
“基発” “基収” など



← 国会が制定・・・大まかなことのみを  
決める

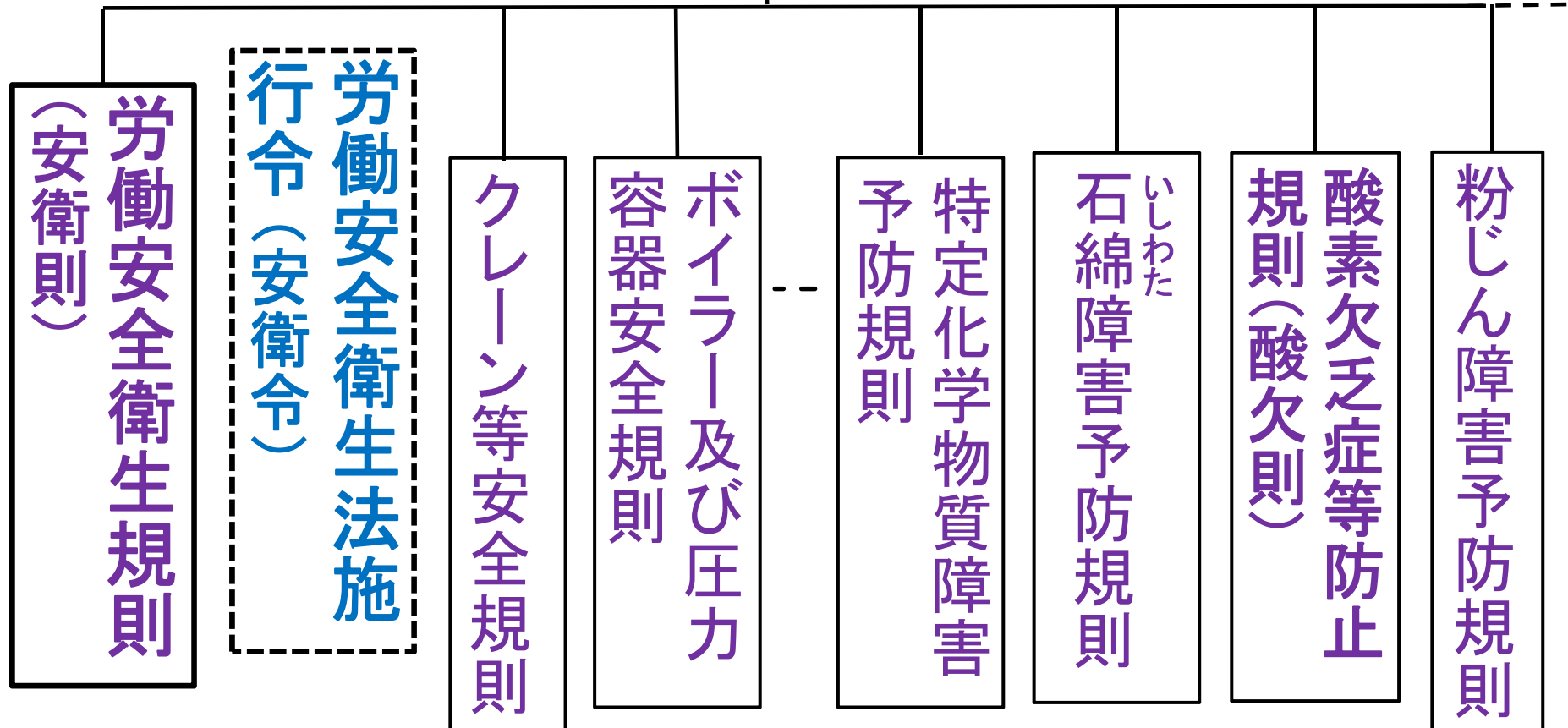


← 各省庁が制定・・・細かなことまで  
(政令・省令) 決める

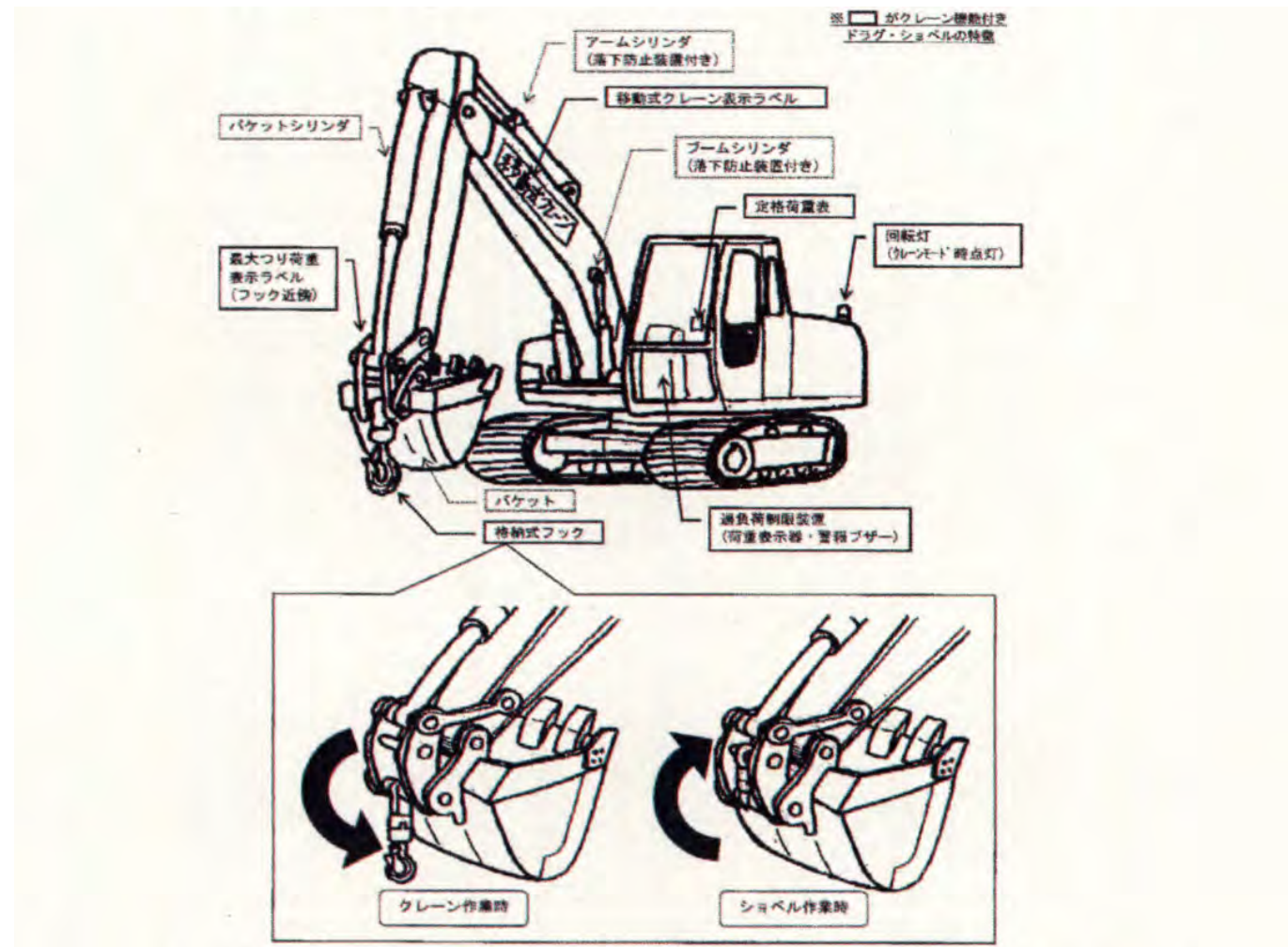


# 法律と規則等

## 労働安全衛生法（安衛法）



# クレーン機能付きドラグ・ショベルの各部の名称及び安全装置





# 労働安全衛生規則

## 第164条(主たる用途以外の使用の制限)

事業者は、車両系建設機械を、パワー・ショベルによる荷のつり上げ、クラムシェルによる労働者の昇降等当該車両系建設機械の主たる用途以外の用途に使用してはならない。

2 前項の規定は、次のいずれかに該当する場合には適用しない。

一 荷のつり上げの作業を行う場合であって、次のいずれにも該当するとき。

イ 作業の性質上やむを得ないとき又は安全な作業の遂行上必要なとき

ロ アーム、バケット等の作業装置に次のいずれにも該当するフック、シャックル等の金具その他のつり上げ用の器具を取り付けて使用するとき。

(1) 負荷させる荷重に応じた十分な強度を有するものであること。

(2) 外れ止め装置が使用されていること等によりつり上げた荷が落下するおそれがないものであること。

(以下、略)

## 《平成4年8月24日付け基発第480号》

- ・第2項第1号の趣旨は、荷のつり上げの作業は、**本来、移動式クレーン等を用いて行うべきもの**であるが、作業の性質上やむを得ないとき又は安全な作業の遂行上必要なときであって、作業装置にフック等の金具等を用いる場合には、第1項の規定にかかわらず、車両系建設機械を用いて荷のつり上げ作業を行うことができることとし...(以下、略)
- ・第2項第1号イの「作業の性質上やむを得ないとき又は安全な作業の遂行上必要なとき」には、車両系建設機械を用いる掘削作業の一環として土砂崩壊による危険を少なくするため、一時的に土止め矢板、ヒューム管等のつり上げ作業を行う場合、作業場所が狭あいなため、移動式クレーンを搬入して作業を行えば作業場所が錯そうし、危険が増すと考えられる場合があること。

# 安全配慮義務について

## 労働安全衛生法

第3条 事業者は、単にこの法律で定める労働災害の防止のための最低基準を守るだけでなく、快適な職場環境の実現と労働条件の改善を通じて職場における**労働者の安全と健康を確保**するようにしなければならない。

## 安全配慮義務(あんぜんはいりよぎむ)とは

**ある法律関係**に基づいて特別な社会的接触の関係に入った当事者間において、当該法律関係の**付随義務**として当事者の一方又は双方が相手方に対して信義則上負う義務をいう。



★労災補償とも並立し得る(往々にして並立する)

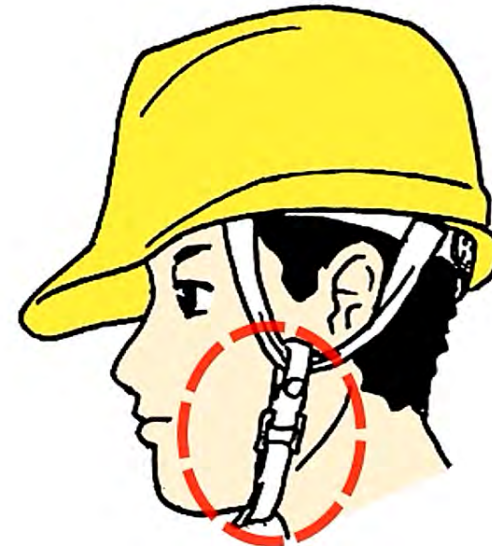
# 安全帽



①まっすぐ深くかぶる



②ヘッドバンドを調節して固定する

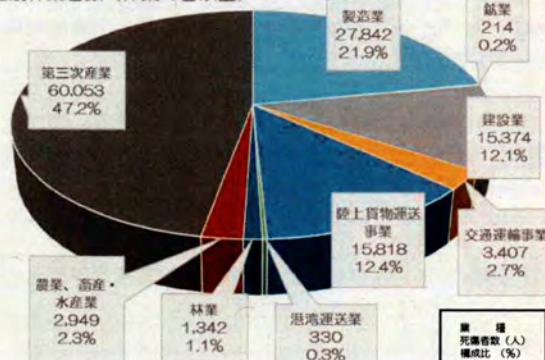


③あごひもを締める



### 3 労働災害の状況（平成 30 年）

業種別休業者数（休業4日以上）



累次の労働災害防止計画に基づく取組を進めています。また、労働災害が発生した場合には、法違反の是正指導だけでなく、再発防止対策の樹立に関する指導を行っています。

### 4 主な労災保険給付の種類

#### 療養（補償）等給付

診察、薬剤の支給、手術等が無料で受けられます。

#### 休業（補償）等給付

ケガ等の治療のために仕事を休み、賃金を受けていない場合に、原則として一日当たりの平均賃金額の80%相当額を受けられます。

#### 障害（補償）等給付

ケガや病気が治り（症状固定）した後、一定の障害が残った場合、障害の程度に応じ年金または一時金が受けられます。

#### 遺族（補償）等給付

労働災害により死亡した時、労働者の遺族が年金または一時金を受けられます。

### お仕事でのケガ・病気には労災保険！



労働災害の場合は、必ず労災保険を請求しましょう。

### 5 労働基準法等の主な内容

事業主などに対しては、次の事項を行うことが、法律で義務付けられています。

#### ▼ 労働条件の明示 ▼

雇入れの際に、賃金や労働時間など法定の事項を書面の交付により明示する必要があります。

#### ▼ 労働時間・休日 ▼

法定労働時間は1日8時間、1週40時間です。  
法定休日は1週1日または4週につき4日です。

#### ▼ 時間外労働・休日労働 ▼

時間外労働や休日労働を行わせる場合は、その上限時間を、あらかじめ、事業場の所在地を管轄する労働基準監督署に届け出る必要があります。

また、時間外労働や休日労働を行わせた場合は、割増賃金を支払う必要があります。

#### ▼ 解雇 ▼

労働者を解雇する場合は、30日以上前に予告を行うか、予告しない場合は30日分以上の平均賃金を支払う必要があります。

#### ▼ 最低賃金 ▼

最低賃金の適用を受ける労働者に対しては、都道府県ごとに定められた最低賃金額以上の賃金を支払う必要があります。

#### ▼ 健康診断 ▼

雇入れ時とその後1年以内ごとに1回、法定の項目について、定期健康診断を行う必要があります。



#### 「未払賃金の立替払制度」

企業倒産により賃金が支払われないまま退職した労働者に対して、一定の要件の下で、未払賃金の一部を、国が立て替えて支払う制度です。

この制度に係る事実上の倒産の認定や未払賃金額の確認などの業務は、方面（監督課）で行っています。

★ このリーフレットに関するご質問、お問合せは、下記までお寄せください。

## 労働基準監督署の役割

働く人びとの安心と安全を守るため  
あなたの街に労働基準監督署があります。



厚生労働省  
労働基準監督署



## 1 労働基準監督署とは

労働基準監督署は、厚生労働省の第一線機関であり、全国に321署あります。

労働基準監督署の内部組織は、労働基準法などの関係法令に関する各種届出の受付や、相談対応、監督指導を行う「方面」(監督課)、機械や設備の設置に係る届出の審査や、職場の安全や健康の確保に関する技術的な指導を行う「安全衛生課」、仕事に関する負傷などに対する労災保険給付などを行う「労災課」、会計処理などを行う「業務課」から構成されています(署の規模などによって構成が異なる場合があります)。

### 【労働基準行政の組織】



### ▼ 方面(監督課)の主な仕事 ▼

#### ◆ 申告・相談の受付

法定労働条件に関する相談や、勤務先が労働基準法などに違反している事実について行政指導を求める申告を受け付けます。

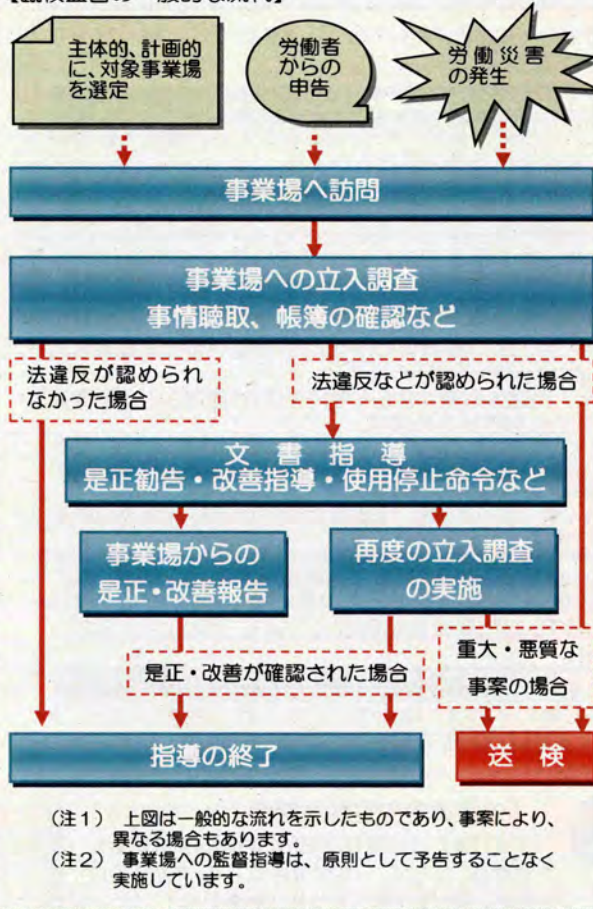
#### ◆ 監督指導

計画的に、あるいは働く人からの申告などを契機として、労働基準法などの法律に基づいて、労働基準監督官が事業場(工場や事務所など)に立ち入り、機械・設備や帳簿などを検査して関係労働者の労働条件について確認を行います。その結果、法違反が認められた場合には事業主などに対しその是正を指導します。また、危険性の高い機械・設備などについては、その場で使用停止などを命ずる行政処分を行います。

#### ◆ 司法警察事務

度重なる指導にもかかわらず法違反の是正が行われない場合など、重大・悪質な事案については、刑事事件として取調べなどの任意捜査や、捜索・差押え、逮捕などの強制捜査を行い、検察庁に送検します。

### 【臨検監督の一般的な流れ】



### ▼ 安全衛生課の主な仕事 ▼

労働安全衛生法などに基づき、働く人の安全と健康を確保するための措置が講じられるよう事業場への指導などを行っています。具体的には、クレーンなどの機械の検査や建設工事に関する計画届の審査を行うほか、事業場に立ち入り、職場での健康診断の実施状況や有害な化学物質の取扱いに関する措置(マスクの着用など)の確認などを行っています。

### ▼ 労災課の主な仕事 ▼

労働者災害補償保険法に基づき、働く人の、業務上の事由、事業主が同一人でない二以上の事業の業務を要因とする事由または通勤による負傷などに対して、被災者や遺族の請求により、関係者からの聴き取り・実地調査・医学的意見の収集などの必要な調査を行った上で、事業主から徴収した労災保険料をもとに、保険給付を行っています。

## 2 監督指導の状況

監督指導は、1年間に約17万件(平成30年)実施しています。そのうち定期監督(主体的、計画的に実施する監督指導)等では、約68%の事業場において労働基準関係法令(※)違反が認められました。

主な違反事項は、

- ① 時間外労働に関する届出を労働基準監督署に届け出ない、または届け出た上限時間を上回って時間外労働(残業)を行わせたもの
  - ② 機械や設備などの安全基準を満たしていなかったもの
  - ③ 時間外労働(残業)などに対して割増賃金を支払っていないもの(一部未払を含む)
- などとなっています。

### 【主な法違反の内訳(平成30年)】



なお、これらの法違反のほとんどは、労働基準監督官の指導等によって是正されています。

(※) 労働基準監督官が取り扱う、労働基準法、最低賃金法、労働安全衛生法、じん肺法、家内労働法、賃金の支払の確保等に関する法律などの法律を指します。



### 「総合労働相談コーナー」

労働基準関係法令以外の相談(労働条件の不利益変更や職場のいじめ・嫌がらせなどのトラブル)については、都道府県労働局や労働基準監督署などに設置された「総合労働相談コーナー」で受け付けています。



# 「福岡市公共工事安全推進計画」に基づく 令和5年度の取組み方針

—福岡市公共工事安全推進委員会—

## 1. 目 標

### ■死亡等重大事故ゼロ

死亡等重大事故ゼロの達成を目指す

### ■必然的事故ゼロ

基本的な安全対策を講じずに起きるべくして起きる事故をなくす

## 2. 重点項目及び具体的な対策

### 挟まれ・巻き込まれ事故の防止

- 【施工前】 危険予知・事故回避につながるよう建設機械等に注意喚起の掲示を行う。
- 【施工中】 機械と人力の併用作業時は、監視人を配置して適切に指示する。  
掘削機械やクレーン等の旋回範囲内は立入禁止とし、注意喚起の掲示を行う。

### 埋設物等損傷事故の防止

- 【施工前】 地下埋設物について、事前に図面の確認や現場調査及び埋設位置の明示を十分に行う。
- 【施工中】 図面と現場の相違や現地マーキングの誤差を念頭に入れ作業にあたる。  
建設機械の慎重な操作、地下埋設物周辺の人力施工を徹底する。

### 墜落・転落事故の防止

- 【施工前】 足場の設置は、手すり・すき間板・幅木等の墜落防止処置を計画する。
- 【施工中】 高所作業時の墜落制止用器具使用を徹底する。  
脚立の使用は、不安定な箇所の設置を避け、手に荷物を持たず昇降する。

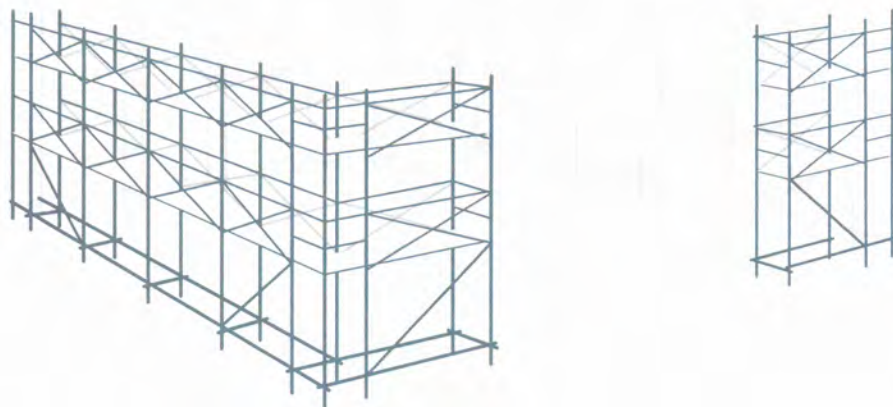
### 第三者人身事故の防止

- 【施工前】 施工箇所に第三者が立ち入らないような措置を計画する。
- 【施工中】 施工箇所をカラーコーン等で囲い、第三者の立入りを防止する。  
注意看板等を設置する。



# 足場からの墜落防止措置が強化されます

●改正労働安全衛生規則 令和5年10月1日から順次施行●



厚生労働省では足場に関する法定の墜落防止措置を定める労働安全衛生規則を改正し、足場からの墜落防止措置を強化しました。令和5年10月1日（一部規定は令和6年4月1日）から順次施行します。

## 改正のあらまし

1

### 一側足場の使用範囲が明確化されます

幅が1メートル以上の箇所において足場を使用するときは、原則として本足場を使用することが必要になります。

2

### 足場の点検時には点検者の指名が必要になります

事業者及び注文者が足場の点検（つり足場を含む。）を行う際は、あらかじめ点検者を指名することが必要になります。

3

### 足場の組立て等の後の点検者の氏名の記録・保存が必要になります

足場の組立て、一部解体、変更等の後の点検後に、点検者の氏名を記録・保存することが必要になります。

また、労働災害防止対策を確実に実施するため、安全衛生経費については適切に確保してください。



厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署



令和 6 年 4 月 1 日以降、幅が 1 メートル以上の箇所<sup>※</sup>において足場を使用するときは、原則として本足場を使用する必要があります。なお、幅が 1 メートル未満の場合であっても、可能な限り本足場を使用してください。

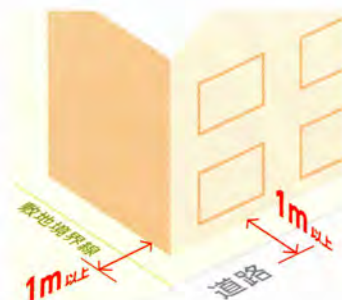
つり足場の場合や、障害物の存在その他の足場を使用する場所の状況により本足場を使用することが困難なときは本足場を使用しなくても差し支えありません。

※足場を設ける床面において、当該足場を使用する建築物等の外面を起点としたはり間方向の水平距離が 1 メートル以上ある箇所のこと。

### ●「幅が1メートル以上の箇所」に関する留意点

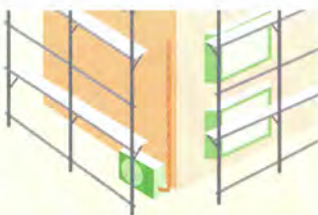
足場設置のため確保した幅が 1 メートル以上の箇所について、その一部が公道にかかる場合、使用許可が得られない場合、その他当該箇所が注文者、施工業者、工事関係者の管理の範囲外である場合等については含まれません。

なお、足場の使用に当たっては、可能な限り「幅が 1 メートル以上の箇所」を確保してください。

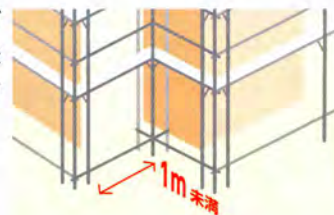


### ●「障害物の存在その他の足場を使用する場所の状況により本足場を使用することが困難なとき」とは

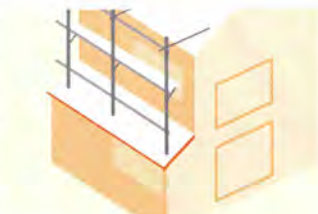
- ・足場を設ける箇所の全部又は一部に撤去が困難な障害物があり、建地を 2 本設置することが困難なとき



- ・建築物の外面の形状が複雑で、1 メートル未満ごとに隅角部を設ける必要があるとき



- ・屋根等に足場を設けるとき等、足場を設ける床面に著しい傾斜、凹凸等があり、建地を 2 本設置することが困難なとき



- ・本足場を使用することにより建築物等と足場の作業床との間隔<sup>※</sup>が広くなり、墜落・転落災害のリスクが高まる



※足場の使用に当たっては建築物等と足場の作業床との間隔が 30 センチメートル以内とすることが望ましいです。

#### <留意点>

足場を設ける箇所の一部に撤去が困難な障害物があるとき等において、建地の一部を 1 本とする場合は、足場の動揺や倒壊を防止するのに十分な強度を有する構造としなければなりません。



※図はイメージ。分かり易くするため足場は簡略化して図示しています。



## 2

### 足場の点検時には点検者の指名が必要になります

安衛則第 567 条、第 568 条、  
第 655 条

R5.10.1  
施行

事業者又は注文者が足場の点検を行う際は、点検者を指名しなければなりません。

#### ● 指名の方法

点検者の指名の方法は「書面で伝達」「朝礼等に際し口頭で伝達」「メール、電話等で伝達あらかじめ点検者の指名順を決めてその順番を伝達」等、点検者自らが点検者であるという認識を持ち、責任を持って点検ができる方法で行ってください。

#### ● 点検者について

事業者又は注文者が行う足場の組立て、一部解体又は一部変更の後の点検は、

- ・ 足場の組立て等作業主任者であって、足場の組立て等作業主任者能力向上教育を受講している者
- ・ 労働安全コンサルタント（試験の区分が土木又は建築である者）等労働安全衛生法第 88 条に基づく足場の設置等の届出に係る「計画作成参画者」に必要な資格を有する者
- ・ 全国仮設安全事業協同組合が行う「仮設安全監理者資格取得講習」を受けた者
- ・ 建設業労働災害防止協会が行う「施工管理者等のための足場点検実務研修」を受けた者

等十分な知識・経験を有する者を指名することが適切であり、「足場等の種類別点検チェックリスト」を活用することが望ましいです。

## 3

### 足場の組立て等の後の点検者の氏名の記録・保存が必要になります

安衛則第 567 条、第 655 条

R5.10.1  
施行

事業者又は注文者が行う足場の組立て、一部解体又は一部変更の後の点検後に 2 で指名した点検者の氏名を記録及び保存しなければなりません。

#### <留意点>

足場の点検後の記録及び保存に当たっては、「足場等の種類別点検チェックリスト」を活用することが望ましいです。



# トラックでの荷役作業時における 安全対策が強化されます。



労働安全衛生規則（以下「安衛則」といいます）が改正され「昇降設備の設置」「保護帽の着用」「テールゲートリフターの操作に係る特別教育」が義務付けられました。

特別教育については令和 6 年 2 月から、それ以外の規定は令和 5 年 10 月から施行されます。

## 改正のあらまし

1

昇降設備の設置及び保護帽の着用が必要な貨物自動車の範囲が拡大されます

これまで最大積載量 5 トン以上の貨物自動車を対象としておりましたが、新たに最大積載量 2 トン以上 5 トン未満の貨物自動車において、荷役作業時の昇降設備の設置及び保護帽の着用が義務づけられます（一部例外あり）。

2

テールゲートリフターを使用して荷を積み卸す作業への特別教育が義務化されます

テールゲートリフターの操作者に対し、学科教育 4 時間、実技教育 2 時間の安全衛生に係る特別の教育を行う必要があります。

3

運転位置から離れる場合の措置が一部改正されます

運転席から離れてテールゲートリフターを操作する場合において、原動機の停止義務が除外されます。なお、その他の逸走防止措置は引き続き必要です。





## ● 昇降設備について（安衛則第 151 条の 67 関係）

荷を積み卸す作業を行うときに、昇降設備の設置義務の対象となる貨物自動車について、最大積載量が 5 トン以上のものに加え、2 トン以上 5 トン未満のものが追加されます。

「昇降設備」には、踏み台等の可搬式のもののほか、貨物自動車に設置されている昇降用のステップ等が含まれます。なお、昇降用ステップは、できるだけ乗降グリップ等による三点支持等により安全に昇降できる形式のものとするようにしてください。

○：現行の規則、●：新設、△：望ましい措置

	2t 未満	2t 以上 5t 未満	5t 以上	備考
床面から荷の上 又は荷台までの 昇降設備の設置	△	●	○	高さ 1.5m を超える箇所で作業を行うときは、安衛則第 526 条第 1 項の規定に基づき、原則として昇降設備の設置が義務付けられています。

※荷の積み卸しを伴わない作業については、陸上貨物運送事業における荷役作業の安全対策ガイドラインにおいて、昇降設備の設置や墜落・転落の危険のある作業において保護帽を着用することとされています。

### 【テールゲートリフターをステップとして使用する場合の留意事項】



テールゲートリフターを昇降設備として使用する場合は、中間位置で停止させてステップとして使用してください。



原則として、テールゲートリフターの昇降時には、労働者を搭乗させてはいけません。

※詳細についてはメーカー取扱説明書をご参照ください。

## ● 保護帽について（安衛則第 151 条の 74 関係）

荷を積み卸す作業を行うときに、労働者に保護帽を着用させる義務の対象となる貨物自動車について、最大積載量が 5 トン以上のものに加え、以下のものが追加されます。

- ① 最大積載量が 2 トン以上 5 トン未満の貨物自動車であって、荷台の側面が構造上開放されているもの又は構造上開閉できるもの（平ボディ車、ウイング車等）。
- ② 最大積載量が 2 トン以上 5 トン未満の貨物自動車であって、テールゲートリフターが設置されているもの（テールゲートリフターを使用せずに荷を積み卸す作業を行う等の場合は適用されません）。

保護帽は、型式検定に合格した「墜落時保護用」のものを使用する必要があります。

○：現行の規則、●：新設、△：望ましい措置

	2t 未満	2t 以上 5t 未満	5t 以上	備考
墜落による危険を 防止するための 保護帽の着用	△	● (上記①②) △ (上記以外)	○	高さ 2m 以上の箇所で作業を行うときは、安衛則第 518 条の規定に基づき、墜落による危険を防止するための措置を講じる必要があります。

※荷の積み卸しを伴わない作業については、陸上貨物運送事業における荷役作業の安全対策ガイドラインにおいて、昇降設備の設置や墜落・転落の危険のある作業において保護帽を着用することとされています。



## 昇降設備の留意事項について



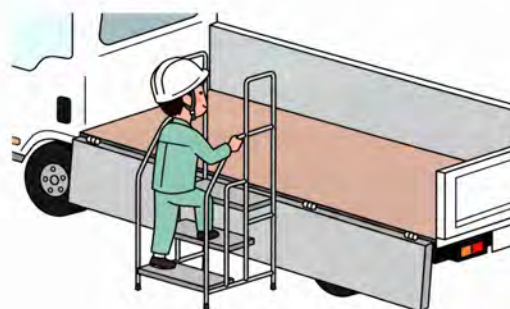
〈墜落のリスクが高い〉

〈望ましい〉

貨物自動車に設置されているステップで突出していないもの（上から見たときにステップが見えない等）は、墜落・転落するリスクが高いため、より安全な昇降設備を設置するようにしてください。



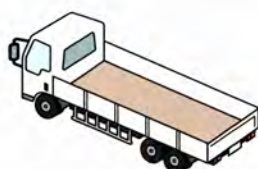
貨物自動車に設置されている昇降用のステップについては、可能な限り乗降グリップがあり、三点支持等により安全に昇降できる形式のものとしてください。



可搬式の踏み台等の例

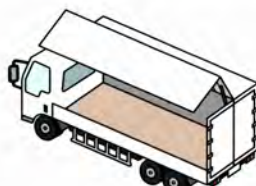
## 新たに保護帽の着用が必要となるトラックの種類（最大積載量 2 トン以上 5 トン未満のもの）

### 保護帽の着用が必要となるもの

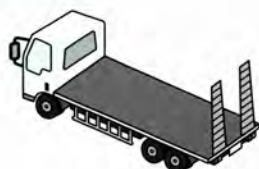


平ボディ車

（荷台の側面が構造上開閉できるものの例）

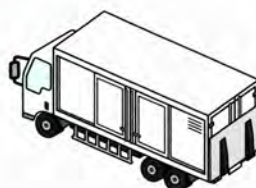


ウイング車



建機運搬車

（荷台の側面が構造上開放されているものの例）



バン

（テールゲートリフターが設置されているもの）

### 適用されないもの



バン

（テールゲートリフターが設置されていないもの）

※墜落・転落の危険のある作業において保護帽を着用することが望ましい。

※最大積載量 5 トン以上のトラックについては、トラックの種類にかかわらず保護帽の着用が必要です。



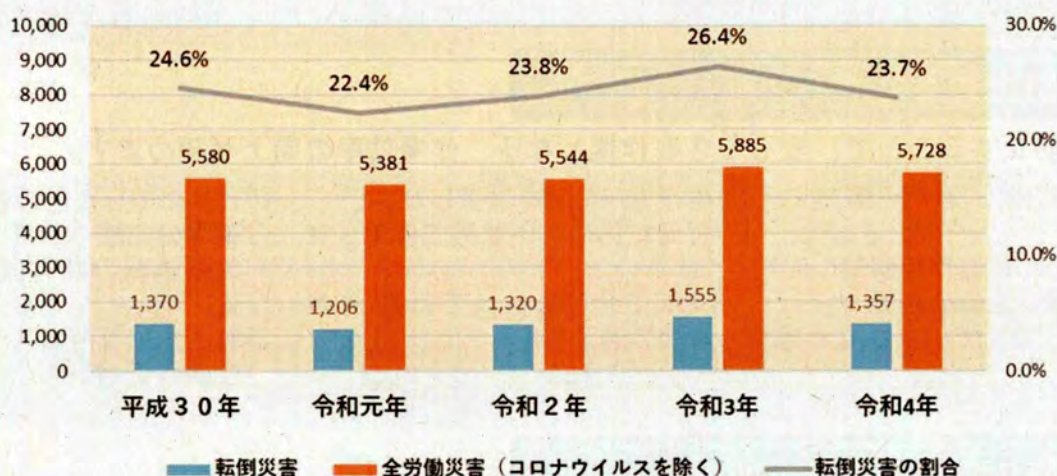
# STOP! 転倒災害 FUKUOKA 2023 (2023.6月-2024.2月)



転倒災害は最も多い労働災害で、全体の約20%強、60歳以上の高齢者の比率が約50%を占め、この防止対策が不可欠な状況です。

## ● 転倒災害の発生状況（福岡県）

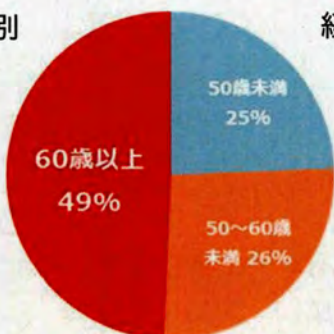
令和4年の福岡県における転倒災害の発生件数は1,357件と、前年と比較して減少しているものの、過去5年間でみると、緩やかに増加しているといえます。また、転倒災害は全労働災害の20%強を占めています。



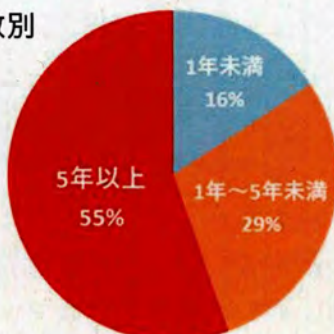
## ● 転倒災害の特徴

60歳以上の高齢者の比率が約50%を占め、経験年数が5年以上の労働者が被災する割合も50%を超えています。また、被災者の60%以上が1か月以上の休業を余儀なくされています。

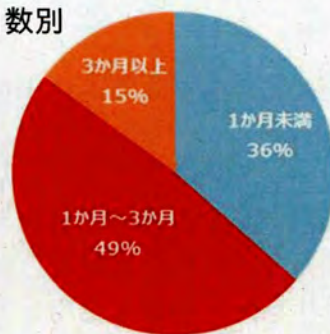
年齢別



経験年数別



休業日数別



【資料】労働者死傷病報告(令和4年)

## ● 転倒災害の発生時間帯

発生時間帯は午前11時台が最も多く、次に10時台、午後は13時台に多く発生しています。





## ●転倒災害の種類と主な原因

滑り



つまづき



踏み外し



### 〈主な原因〉

- 床に水や油が飛散している
- ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている
- 床が滑りやすい素材である

### 〈主な原因〉

- 床面の凹凸や段差がある
- 通路等に荷物や商品などが放置されている。
- 自分で思ったより足が上がらない。

### 〈主な原因〉

- 大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。
- 階段、通路、作業場が暗い。

## ●転倒災害防止対策のポイント

転倒災害を防止することで、安心できる作業となり、作業効率の向上が望めます。

- 床面の汚れ(水、油、粉等)を取り除く
- 床面の凹凸、段差等の解消
- 手すり、滑り止めの設置
- 滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行

- 歩行場所に物を放置しない
- 足元が見にくい状態で作業させない
- 時間に余裕をもって行動(作業時間の適正化)

- 作業に適した靴の着用
- 職場の危険マップの作製による危険情報の共有(危険の見える化)
- 転倒危険場所にステッカー等で注意喚起(転倒危険個所の見える化)

## ●転倒災害防止のためのチェックシート

### セーフティチェック項目

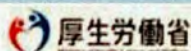
		✓
1	通路、階段、出入口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ(照度)が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業内容に適した耐滑性があり、かつ、サイズが合うものを選んでいませんか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などを標識などで注意喚起していますか	<input type="checkbox"/>
8	ながらスマホやポケットに手を入れたまま歩くこと、手すりを持たない階段の昇降などを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

## ●高齢者の安全衛生対策

### エイジフレンドリー助成金(令和5年度分は今後正式発表される見込み)

エイジフレンドリー補助金は、60歳以上の高齢者を雇用する中小企業事業者を対象に、職場環境の改善に要した費用の一部を補助します。

昨年度は、(一社)日本労働安全衛生コンサルタント会に委託され、申請受付期間は令和4年5月11日から9月30日まででした。



職場の安全を応援する情報発信サイト/

<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/>

職場のあんぜんサイト

各種情報発信をしています。



福岡労働局・労働基準監督署



# はしごを使う前に

はしごを使う時は、次のチェックリストを使って、作業現場の点検をしてください。  
あなたやあなたと一緒に働く仲間を守るため、すべてにチェックがついた状態になってから、作業を始めましょう。

## 作業前 8 のチェック！！

### (作業前点検リスト)

年 月 日

天気 (晴・曇・雨・雪)

現場名

確認担当者名

- ☐ はしごの上部・下部の固定状況を確認している
- ☐ (はしごをボルトで取付けている場合) ボルトが緩んだり腐食したりしていない
- ☐ はしごの上端を、上端床から60cm以上突出している
- ☐ はしごの立て掛け角度は、75度程度となっている
- ☐ はしごの踏みさんに、明らかな傷みはない
- ☐ はしごの足元に、滑り止め (転位防止措置) がある
- ☐ 靴は脱げにくく、滑りにくい
- ☐ ヘルメットを着用し、あごひもを締めている

※既設はしごを使うときも、チェックしましょう

### 「労働安全衛生規則」で定められている事項

#### 移動はしご (安衛則第527条)

- 1 丈夫な構造
- 2 材料は著しい損傷、腐食等がない
- 3 幅は30cm以上
- 4 すべり止め措置の取付その他転位を防止するための必要な措置



出典:「シリーズ・ここが危ない  
高所作業」中央労働災  
害防止協会編

「はしごや脚立からの墜落・転落災害をなくしましょう！」  
(リーフレット) も確認してください。⇒⇒⇒



厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署





# 脚立を使う前に

脚立を使う時は、次のチェックリストを使って、作業現場の点検をしてください。  
あなたやあなたと一緒に働く仲間を守るため、すべてにチェックがついた状態になってから、作業を始めましょう！

## 作業前 10 のチェック！！

### (作業前点検リスト)

年 月 日

天気 (晴・曇・雨・雪)

現場名

確認担当者名

- ☐ 脚立は安定した場所に設置している
- ☐ 開き止めに確実にロックをかけた
- ☐ ねじ、ピンの緩み、脱落、踏みさんの明らかな傷みはない
- ☐ ヘルメットを着用し、あごひもをしめている
- ☐ 靴は脱げにくく、滑りにくいものを履いている
- ☐ 身体を天板や踏みさんに当て、身体を安定させる
- ☐ 天板上や天板をまたいで作業をしない
- ☐ 作業は2段目以下の踏みさんを使用する  
(3段目以下がよりよい)
- ☐ 作業は頭の真上でしない
- ☐ 荷物を持って昇降しない

### 「労働安全衛生規則」で定められている事項

#### 脚立 (安衛則第528条)

- 1 丈夫な構造
- 2 材料は著しい損傷、腐食等がない
- 3 脚と水平面との角度を75度以下とし、折りたたみ式のものは、角度を確実に保つための金具等を整える
- 4 踏み面は作業を安全に行うため必要な面積を有する



**高さ2m以上の作業時は、墜落制止用器具の使用も必要です！**

「はしごや脚立からの墜落・転落災害をなくしましょう！」  
(リーフレット) も確認してください。⇒⇒⇒



厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署